

心が持っている条件付けを分析する

心身条件反射療法協会

昨年十二月七日、東京・日赤ビルで、心身条件反射療法セミナーが開催された。

心の問題から派生する病気が急増している現在、もっとも期待される療法のひとつだといえる。内臓疾患や肩こり、腰痛などの原因をたどると、ストレスや過去のトラウマなど、心理的な要因が少なくない。根本原因は、ストレスやトラウマなど心の条件付けにあり、病気はその表層的な現象にすぎない。なのに、表層的な現象にとらわれたアプローチをしていては根本治療はできない。完治する期間も長引くし、かえって悪化させるケースもある。

健康を考える際、単に肉体内の原因追及だけでは解決できない問題がたくさんある。そこで心の内部に食い込むアプローチが必要となる。心身条件反射療法は、人間

の神経反射反応を利用して、ストレスやトラウマによって心身に刻み込まれた(条件づけされた)記憶、学習、行動パターン(病的条件反射)を検査する。そして、環境と心、神経系、身体との関係性を明確にし、その情報ルートを調整し、病的条件反射を再構築させ、自然治癒力を促進させる。

心身の治療法の研究を永年続けてきた保井志之DCはこう語る。

「脳がイメージすることによって自律神経の働きが変化することは実験でも実証されています。私たちが得意とする筋力反射や独自の検査法を活用すれば、どんな条件付けを脳が持っているかが明確になります。原因を究明したら、その悪い条件付けをいい条件付けに差し替えるわけです。そのことで自律神経の働きはアップします。自然治癒力も向上し体調が回復す

るのです」。

心の病を抱える人たちには、幼少期に親の愛情を十分に受け取っていない人が多いという。それを改善するには「育て直し」が必要だ。いいイメージを脳に送り込んで悪い条件付けを変えていくという治療法も同様の「育て直し」の要素がありそうだと感じた。



講師をする保井志之DC